



効果的な自習の書

「運動学演習ノート」

バーバラ・ナッシュ 田口順子編著

PTであれOTであれ、身体運動学に精通していることが他の専門家と異なるゆえんであり、その応用がとりもおさず運動療法でありADL訓練であるといえる。このようにリハビリテーション医学の重要な基礎学は、単なる解剖学にとどまらず機能解剖学、生体力学に関連した運動学 Kinesiology であるといえる。しかし、この運動学を理解することはかならずしも容易でなく、また、すぐ忘れてしまうものである。この演習ノートの形式と同じものは、英米での医学教育には広くとり入れられ、最も教育効果があがるものとされている。すなわち、この書は著者が手をとるとく読者を一步一步その内容に導き、著者と一体となってこの書を完結させるために、読者はみずから鉛筆をもって書き入れてゆく形式なのである。

この書は、わが国最初の正規のリハビリテーション技術者養成機関であるリハビリテーション学院の、教材の公開という形で Nash

女史および田口女史の両者によって書かれたものである。この著者の1人である田口さんは、わが国リハビリテーション医学発達の黎明期に育った、数少ない先覚者のひとりで、えがたい優秀な療法士である。リハビリテーション学院の創設以来、彼女は学生の指導にたずさわって、また学生として実際に研修に加わり苦勞されたといっている。その貴重な経験からもうとも学びやすく、より正確で系統的に自習できるように複雑な身体運動学をみごとにまとめた手腕はおおいに認められてよい。

この書こそ各地に続々としてできつつある療法士養成所が求めている教材であり、そのまますぐにでも各校の学生に役だち、より効果的な教育が可能になったものといえる。

本書は上肢、下肢、軀幹、歩行の4部よりなっている。簡潔な文章や多くの鮮明な図譜とよくまとめられた模式図が挿入されており、上質の紙を使ってあるので、

何度も鉛筆で書いては消しもできる。読者は、本書が触れてみよ、動かせ、記入せよと命ぜられるがままにページをすすめて実際に行なってゆきだけで、段階をおって基礎的な知識を組み立ててゆき、動作の分析がすすめられてゆくのである。この書は学校の演習書と同時に、広く一般の理学療法士・作業療法士として実際の業務にたずさわっている人の再教育の手引き書として役だつほかに、これから国家試験をうけるすべての人の格好のドリル書として推薦したい。

このほかにもリハビリテーション医学の重要な分野である義肢、ADLなどのこのような形式の演習ノートも望ましいものである。これらの画期的なテキストの出現により、リハビリテーション医学の進歩はさらに早められることであろう。(B5, 94ページ, ¥700, 医歯薬出版)

(九州労災病院部長 原 武郎)